

# 幸せを実感できる年に！

鳥羽市長 木田久主一



皆さん、明けましておめでとうございます。

「今年こそは良い年を」の想いで新年を迎えられたことと存じます。昨年は大変な一年でありました。景気も回復基調にあり、観光客も増えつつあった、あの3月11日、自分の目を疑うような津波の映像がテレビに映し出されました。さらに福島原発事故が追い打ちをかけ、台風12号、15号と続き、多くの方が被災されました。

その被災された方が「平々凡々とした日々の生活が本当はとても幸せなことであるとわかりました。」と言われた言葉が印象に残りました。平和で幸せな生活も普段はあまり気づかず、失ってはじめてその値打ちがわかるということでしょうか。

昨年11月には、ブータン国王夫妻が訪日され、若く、さわやかな印象を私たちに与えました。ブータンという国は自然豊かではあります、決して物的に豊かな国ではありません。しかし、ブータン国民の実に97%の人が、自分は幸せであると思っっているようです。一方、日本においては、約60年前と比較して国民総生産は6倍に増加しているのに、国民が、自分は幸せであると感じている幸福度は60年前と変わらず横ばいであるということです。

被災された方の言葉とブータン国民の考えを重ね合わせる時、私たちに訴えてくる何かがあります。

現在ある平和な生活に感謝し、それを守っていく努力をする。平和な生活を失ってしまった被災地の復興を果たし、それを取り戻すために全ての国民が協力し合う年になってほしいものです。

市民の皆様にとりまして、平和で心安らぐ一年となりますようご祈年申し上げます。

# 市民の皆様との協働で力強い鳥羽市を目指して

鳥羽市議会議長 坂倉 紀 男



新しい年を迎え、新しい希望と共に、新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。  
年頭にあたり、鳥羽市議会を代表いたしまして、ご挨拶を申し上げます。

昨年は、三・一一東日本大震災の発生、身近なところで三重県南部から和歌山県につながる台風十二号、十五号による大災害は、「想定外でした」で済まされる事例ではなく、人類の思い上がりに対する自然の怒りのようなものを感じているところです。

さて、私ども市議会も昨年四月一日に施行いたしました「議会基本条例」に基づき、最大課題である「市民の皆様との対話」も試行を含めて三年目となり、昨年も十四名の全議員で手分けしながら、市内三十七箇所で議会報告ならびに意見交換会を開催し、皆様のご意見をお聞きしてまいりました。このことが単に行政に対する要望の受け皿になることなく、議会内における政策発議あるいは条例策定の提案にまで熟成させてゆくことを目標にしていきたいと思えます。

申すまでもなく市政については、市だけで完結するわけではなく、国政、県政と密接に連携して成り立っていますが、「地方分権一括法」以来、地方分権に代表されるように、基礎自治体の政策形成能力が問われる時代になってきました。当市におきましても、第五次総合計画の中で、防災や子育てを地域で共に支えあう「共助」の仕組みづくりも始まりましたが、このことを補完するためには市民の皆様との協働が不可欠であり、市政にどれだけ多くの市民の皆様が参画していただけるかが、鳥羽市の発展の鍵になると考えています。

本年も、市民の皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げますとともに、変わらぬご支援、協力をお願い申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。

# 謹賀新年